

スマートフォンの利用者情報等に関する 連絡協議会

CIAJの取り組みについて

2013年 7月 11日

一般社団法人
情報通信ネットワーク産業協会
(CIAJ)

CIAJとは



一般社団法人 情報通信ネットワーク産業協会とは

CIAJは、1948年に通信端末メーカーやネットワークインフラベンダーが主体となり、任意団体として設立されました。そして2009年10月、一般社団法人として新たにスタートいたしました。通信ネットワーク機器、携帯電話等の製造事業者が正会員として、通信事業者やソリューションベンダーがフォーラム会員として加盟しており、5月現在で会員数は234社・団体を数えます。産業界の更なる発展を目指し、新しい事業機会の創出に向けた、ICT産業の活性化につながる政策提言・意見発信の強化、活動の成果の見える化、外部発信の強化に取り組んでまいります。

	正会員 ・端末ベンダー ・ネットワークインフラベンダー
	フォーラム会員 ・ISP ・SI企業 ・通信事業者 ・ソリューションベンダー ・ASP/CSP ・ユーザ企業
	賛助会員

*) 情報通信ネットワーク産業協会 2013年度パンフレットより

会員企業の専門家によって構成される委員会や研究会、分科会で具体的な活動を進めています。

<http://www.ciaj.or.jp/jp/ciaj/sosiki/>

スマートフォン・携帯電話に係る諸課題への取り組み

スマートフォン、携帯電話に係る課題検討は、主として、以下の分科会・委員会で検討し、政策提言等を行っています。

モバイルビジネス分科会

- ・スマートフォン、携帯電話の海外市場への事業展開と国内市場での競争力強化に向けた、共通課題の検討と対応策の調査研究
- ・スマートフォン、携帯電話の国際競争力強化に関して、新サービスの検討を含めた共通課題の分析や方策の検討

適合性評価委員会

- ・スマートフォン、携帯電話を含む情報通信機器の技術基準や技術的条件及びその制度に係わる課題検討と改善提案、試験／認証に係わる情報の展開

移動通信委員会

- ・スマートフォン、携帯電話の利用実態調査、業界動向調査
- ・リチウムイオン電池の電気用品安全法対応等、新たな課題への対応
- ・リサイクル及び環境関連活動への参画

取り組みに対するCIAJの考え方

①個別の端末仕様に係ることは、端末ベンダー各社で対応

②情報通信産業界として検討すべき課題への取り組み

- ・ビジネス展開上の参照情報として、「スマートフォン等の利用者情報等に関する連絡協議会」で議論された内容を含め、他団体の取り組み状況やその内容を、関連会員企業に展開する。
- ・利用者がスマートフォン・携帯電話を安全・安心に使用できる環境をめざし、情報通信産業界を代表した意見の提出・発信を行う。
 - ⇒ 総務省会合等での意見発信、意見募集への対応
 - ⇒ 安全・安心に係る協議会等各種団体への参画と意見発信

今後の課題

スマートフォンの普及拡大に伴い、以下の課題への取り組みが必要とされます

- －スマートフォンのセキュリティに対する認知度不足
- －セキュリティ人材の不足

対応の提案

利用者の電波リテラシー向上の観点から、

- －マスコミ等を介した情報展開による露出度のアップ
- －学校教育を含めた啓発活動

など

安全・安心な利用環境実現に対するCIAJの考え

CIAJは、利用者のリテラシー向上の必要性について、繰り返し意見発信を行ってきました。

総務省「電波有効利用の促進に関する検討会(2012年5月)」にて

電波利用料による収入は、これまでの取り組みに加え、

- ・情報通信の急速な進展に伴い顕在化してきた安心安全や高齢者利用など、利用者のリテラシー向上の早期改善の取り組みに対しても、活用されることを要望

総務省「電波利用料の見直しに関する検討会」(2013年5月)にて

- ・青少年の安心安全な利活用、一般利用者(特に高齢者を含む情報弱者)の安心安全な利活用を進めるために、これまでのリテラシー向上の取組みに加え、情報通信利活用のための環境整備やセキュリティ等の問題の対処に向けた、グローバルな観点でのリテラシー向上への取組みを要望

参考

■携帯電話の国内市況 スマートフォンが増加

[Wi-Fiルータ/モジュールを含む、輸出は除く]

(2011年度から2012年度で前年比 125.5%) [通信事業者向けタブレット端末を含む]

日本メーカーのスマートフォン増加率: +10.2%、フィーチャーフォンは36.8%減少

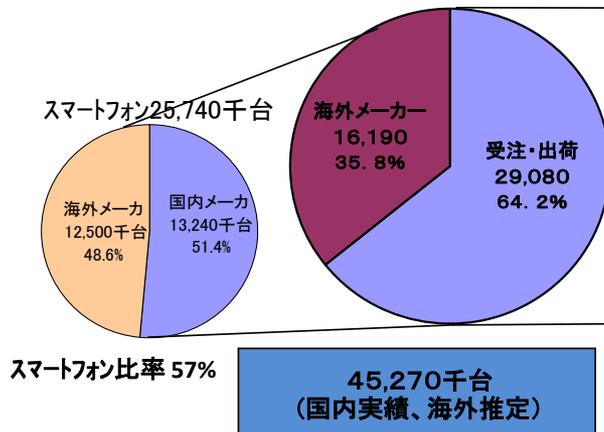
海外メーカーのスマートフォン増加率: +41.6% (ほぼ、スマートフォンのみ)

全出荷のスマートフォン比率は57%から71%に拡大

さらに、2013年度になって、日本メーカーの販売シェアは大きく変化している。

2011年度国内携帯電話
(輸出除く、モジュール・データ含む: 千台)

■受注・出荷(自主統計)
■海外メーカー流入分



国内市場は横ばい(+0.7%)

但し、伸び率は
自主統計受注出荷 15.4%減
海外流入分 29.6%増

2012年度国内携帯電話
(輸出除く、モジュール・データ含む: 千台)

■受注・出荷(自主統計)
■海外メーカー流入分

